

Weekly Report 2023-2024



創 立 1969年 4月 14日
承 認 1969年 4月 23日
チャーターナイト 1969年 11月 9日
発 行 I T・広報委員会

世界に希望を生み出そう

会長：磯崎裕騎 / 幹事：吉岡哲哉 / 副会長：村上義憲 / 会長エレクト：江島繁夫 / 副幹事：岩本達也 / S.A.A: 堀井実

今週のプログラム	第 2597 回	5 月 10 日
(夜例会) 55周年打ち上げ / (自己紹介) 米山奨学生 叶 娟娟さん		
担当者	55周年記念事業委員会	例会場 JRホテルクレメント高松

先週のプログラム	第 2596 回	4 月 26 日
客話「香川県の「お口の健康」に香川大学医学部附属病院としての関わりについて」香川大学准教授 助川信太郎様		
担当者	プログラム委員会	例会場 JRホテルクレメント高松



磯崎会長挨拶

みなさんこんにちは。
先週は体調不良により失礼しましたが、聞くところによると何人も体調不良の会員がいらっしゃるようでダメージは大きかった様です。
今日出席の方は大丈夫でしょうか。
周年事業が終わり今回計年度の残す行事としては徳島の地区大会となりました。
登録された方は参加されて地区全体の熱量を感じて頂きたいと思います。
今日は後ほど私の大学後輩である香川大学医学部口腔外科の助川准教授にお話を頂戴することになっております。あとでどうぞよろしくお願いします。
本日はよろしくお願いします。

5月誕生日の樹

4日	加藤和理 会員	ヒトツバタゴ
15日	鏡原良則 会員	フジ(藤)
記念樹	- 記念日と誕生日365日の+1の樹 - 財団法人経済調査会発行より	



吉岡幹事報告

・ロータリーの友お持ち帰り下さい。

ニコニコBOX	
FSMご協力頂きありがとうございます。今後もよろしくお願いします。	江島
55周年おつかれさまでした。	江島
早退	1件
合計 3件	
本日 の 合 計	20,500円
2023-2024 年 度 累 計	718,500円

出席報告		出席委員長：低田陽介	
会 員 数 /	41名	出席規準数 /	39名
出席者数 /	22名	欠席者数 /	17名
出席率 /	56.41%	ビ ジ タ ー /	0名
最終出席率 /	4月13日 87.18%	→ 92.31%	

メイクアップ

4月24日 高松南RC 磯崎

5月10日 今日は何の日	今日生まれの有名入		
バード・デー/ホームソーイングの日	1967年 武田修宏	1937年 山口洋子	
1900年 日本初の電気自動車お目見え	1961年 藤あや子	1933年 扇千景	
1960年 米原潜トライツン潜水して世界一周	1959年 小松辰雄	1925年 橋田壽賀子	
誕生花	かきつばた、花言葉は“幸運のきざし”		
誕生石	インカローズ、宝石言葉は“愛の炎”		

それこそロータリー
どこで会っても やあと言おうよ
見つけた時にゃ おいと呼ぼうよ
遠いときには 手を振り合おうよ
それこそ ローローロータリー



日時 2024年4月26日
 場所 JRクレメントホテル高松例会場
 出席者 磯崎、遠藤、江島、村上、吉岡、堀井、大西、田中、岩本（オブイザーバー）
 議題 ① 台湾震災お見舞金について → 3万円とする
 ② 例会用プロジェクター購入について
 → 購入 入谷会員に見積もり依頼をする

ロータリーの特別月間（5月）

青少年奉仕月間 (Youth Services Month)
 5月は、若い人々の育成を支援するすべてのロータリー活動に焦点を当てる「青少年奉仕月間」である。ロータリークラブは、この月間中、クラブのニュースレターやその他の広報資料に「各ロータリアンは青少年の模範」のスローガンを利用するよう奨励されている。

ポール・ハリスの言葉 ロータリー情報委員会 加藤和理

26. 先見の明と意志決定

Two elements are essential to important achievement : first vision, without which there can be no beginning ; second, determination without which there can be no successful end.

大事を成し遂げるには二つの要素が不可欠である。第一に先見の明——これなくして事の始まりはない。第二に意志決定——これなくして有終の美はない。

これは実業人にとってとりわけ大事な教訓である。意志決定なくして事は始まらず、先見の明なくして有終の美はないと、順序を逆にした方が言葉としては合理的なのかも知れぬが、そんな屁理屈はどうでもよい。要するに大事を成し遂げん為に不可欠の二大要素が理解出来ればいいのだ。

これはロータリー財団の創始者 Arch Klumph を讃える言葉の一節なのだが、これに続けて彼は、およそ大きな運動を志すからには長年月にわたって独立孤往、失意困態に耐える覚悟がなければならぬ。大きな仕事には犠牲、献身を厭わない個人の指導が必要なのであって、そういう指導は団体がやるのではなく、あくまで個人がやるのだと言っている。財団について語っているのだが、これは人生百般に通ずる原理であって、ロータリーという組織はそういう犠牲献身の指導者を育成して世に送り出す使命を持っている。

ところでこの本を読んでみて気が付くことは、ポールはロータリーの功労者として数多くの人この名を挙げ、情熱をこめてこれを追懐賞揚しているが、自らの功には全く触れていない。自らを語る場面から窺えるのは、田園詩人ともいべき姿勢と情感のみである。

IT・広報委員会よりお願い

週報に掲載させていただく記事・原稿を募集させて頂きたく会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。
 題目は自由として、できるだけ多くの皆様に近況報告も含め各業界分野の話、身近な随筆、提言等どんなお話でも結構ですので投稿していただきます様、宜しくお申し上げます。



持続的な変化の兆し

ゴードン R. マッキナリー
 2023-24年度 国際ロータリー (RI) 会長

この1年間、ロータリーの雑誌でメンタルヘルスにフォーカスを当てて掲載したこと、そして、皆さんが世界中で熱心にこの問題に取り組んでくださったことを心から感謝し

ています。

ロータリーがこの問題に、もっと積極的に取り組むべきだと私が初めて発言したのは2023年1月です。その時、世界的なメンタルヘルスシステムが存在しないからといって、機能していないとは言えないと指摘しました。同時に、ロータリーがそのシステムを築く力になれるのではないかと、強い希望も伝えました。

この希望が現実になる兆しが最初に見えたのは、皆さんが立ち上げた何十件ものメンタルヘルスプロジェクトに出合った時でした。また、多くの皆さんが、その諸活動を人々に伝えるよう、仲間のロータリー会員に勧めてくれたことも、同じくらい重要です。

若いロータリアンとローターアクターが示したリーダーシップ、そして、その勇敢で感動的なストーリーに私は心から感銘を受けました。元ローターアクターのフレディ・アルマザンさんは今月、シンガポールで開催される国際大会でその力強い生きざまを語ってくれます。

アメリカ・コロラド小児病院で小児精神保健のための奨学金を提供しているコロラドのロータリークラブのプロジェクトは、人々や地域社会に持続可能なインパクトをもたらす、永続的な変化を生み出す好例といえます。

国際大会では、メンタルヘルスに関する取り組みで大きなインパクトをもたらす、1月に「2024年世界を変える行動人」として表彰された人たちの話も聞くことができます。ビンディ・ラジャセガランさんは、マレーシアの子どもたちがメンタルヘルスの問題に対処するスキルを学べるよう支援し、それを全国的な支援体制として強化したプロジェクトについて話してくれます。

また、メンタルヘルス・イニシアチブのロータリアン行動グループの役員であるリタ・アガルワルさんは、出身地のインド・ナグプールで、青少年のメンタルヘルスに関する「Wellness in a Box」と名付けたツールキットを開発、活用したたことにより、この表彰を受けました。臨床的に実証されたこのキットは、世界のどこでも応用できます。支援や実施に関心のあるクラブは、同行動グループまでご連絡ください。

今後、このグループは、実証済みの測定可能なプロジェクトを推進する上で、リーダーシップを発揮していくことでしょう。これにより、各クラブが拡大可能で持続可能な成果を生むイニシアチブに取り組む力も高まるはずですよ。

この雑誌を読み終えたら、My ROTARY のラーニングセンターにアクセスし、短い動画を含む「より大きなインパクトをもたらす」を、ぜひチェックしてください。皆さんもインパクトに焦点を合わせれば、「世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生む」というロータリーのビジョン声明を形にすることができます。

